

文章題テスト・小説(1)

日 月 名前

★次の文章を読んで、問いに答えなさい。

十歳さいになるまで、キキはまあまあふつうの女の子としてそだってきました。母さんが魔女まじよで、自分も十歳になったら魔女になるかどうか決めなくてはならないとわかっていたのですが、あまりそのことを本気で考えたことはなかったのです。十歳になってしばらくたったころ、友だちが、「あたし、母さんのあとをついで美容師びようしになるんだ」といったのを耳にして、「あとつぎ」ということを急に考えるようになったのです。コキリさんがあとをついでほしいと思っていることはうすうす感じていました。でもキキは、母さんが魔女だからあたしも、とかんたんに考えるのはどうも気がすすまなかったのです。(あたしは自分のすきなものになるんだ。自分で決めるんだ)

キキはそう思っていました。

そんなある日、コキリさんが、

「ちよっとだけ、飛んでみない？」

と小さなほうきをつくってくれたのです。

「あたしが？飛べる？」

「魔女のむすめですもの、だいじょうぶなはずよ」

キキは、そのさそうようないかたがすこし気になりましたが、めずらしさもてつだって、さっそくかんたんな飛びあがりと着地のしかたをおしえてもらうと、コキリさんのあとについて、おずおずとほうきにまたがって、地をけったのでした。

とたんに体がすっと軽くなり、キキは、なんと、空中に浮ういていたのです！

「あたし、飛んでる！」

キキは思わずさけんでいました。それは屋根よりたった三メートルばかり



の高さでしたが、とてもいい気持ちでした。空気もほんのすこし青い感じでした。それに、もっと高いところを飛んでみよう、もっと、もっと……そして何が見えるかな、何があるかな、もっと、もっと……とまるで体と心をもちあげるようなふしぎな興味キョウミがわいてきて、たちまち飛ぶことがだいすきになってしまいました。

そしてもちろん、魔女になる決心をしたのです。

(角野 栄子「魔女の宅急便」たっきゅうびんより)

1 線「あとつき」とありますが、キキにとって「あとをつぐ」とはどのようなことを意味しているのですか。次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。



と同じように、自分もしょうらいは魔女になる、ということ。

2 線「うすうす」という言葉の使い方として正しいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア ガラスごしに外のようすが、うすうす見えている。

イ それがまちがいだということには、うすうす気づいていた。

ウ 部屋の中に彼かれがわすれていった本が、うすうすのこっていた。

エ このまま使い続けると、この紙はうすうす足りなくなるだろう。

3 線「あたし飛んでる！」を声に出して読むとき、どのような調子にするとよいですか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア こわがっているように、小さな声で読む。

イ びっくりしたように、大きな声で読む。

ウ 感心したように、静かな声で読む。

エ だれかにたずねるように、終わりを上げて読む。



4 線4「空気もほんのすこし青い感じでした」とありますが、どうい
 ことですか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に
 ○をつけなさい。

ア はじめて空中に浮いたことがこわくて、目の前が暗くなったように感じた
 ということ。

イ 高い場所は地上よりも気温が低いので、空気も少し冷たかったということ。

ウ はじめて空中に浮いたことがうれしくて、空気までさわやかに感じられた
 ということ。

エ 高い場所では空や屋根の青い色がうつって、空気も青く見えたということ。

5 この文章でのキキの行動や気持ちの変化を次のようにまとめました。
 []に当てはまるキキの言葉を、文中から書きぬきなさい。

魔女になるのは気がすすまない。

← (自分のすきなものになるんだ。自分で決めるんだ。)
 コキリさんにさそわれて、ほうきで飛んでみることにする。

← 「
 空中に浮く！」

← 「あたし、飛んでる！」
 魔女になる決心をする。

6 この文章を大きく二つのまとまりに分けるとすると、二つめのまとまりはどこから
 始まりますか。はじめの六字を書きぬきなさい。

